

2024年注目の天文現象

いよいよ新しい年のスタートです。2024年はどのような天文現象が起きるのでしょうか。今年は主に後半になると、夕方の空に惑星が見やすくなります。また、月が1等星や惑星を隠す星食も多く見られます。今年注目の現象を紹介しましょう。

日食・月食

今年は残念ながら、日本で見られる日食・月食はありません。なお、半影月食を含めれば、3月25日に半影食状態の月が地平線から昇る様子を見ることができます。しかしこの日、大阪の月の出時刻は18:14で、18:32には半影食が終了してしまいますので、観察することはかなり難しいです。

海外では、4月8日にアメリカ・メキシコで皆既日食を見ることができます。2020年代に見られる皆既日食の中でも、特にアクセスのよい場所で起こることから、多くの観光客が訪れることでしょう。また10月2日には、チリ、アルゼンチンやイースター島で、金環日食を見ることができます。

惑星のうごき

水星はいつも太陽に近いので、夕方の西の空か、明け方の東の空低い場所にしか見ることができません。動きも早いので、観測しやすい時期は限られています。(右表参照)

金星は昨年後半、明け方の空に見えていましたが、年明け後も引き続き明けの明星として輝いています。しかしどんどん高度を下げて行き、3月には見えなくなってしまいます。その後、夕方の空にまわり、9月以降、2025年にかけて、宵の明星として輝くようになります。

火星は年の前半は太陽に近く、見ることはできませんが、6月頃より明け方の空に見えるようになってきます。年末にかけて地球との距離が近づくため、明るく輝くようになります。次回の火星の最接近は、2025年1月12日です。

2024年に水星を見やすい時期	
夕方西の空	明け方東の空
3月中旬～下旬	1月上旬～中旬
7月上旬～下旬	5月中旬
11月中旬	9月上旬
	12月中旬～下旬

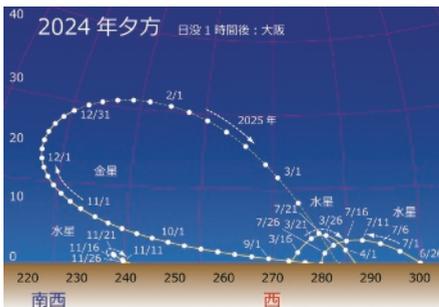


図1 水星と金星の動き(夕方)

木星は、4月初めまでは夕方西の空に見えていますが、4月中旬以降は太陽に近づき見えなくなってしまいます。その後、6月終わりごろから、明け方の東の空に見えるようになります。12月8日に衝(地球から見て太陽の反対方向にある状態)になり、一晩中見える観望好機となります。

土星は、2月初めまでは夕方西の空に見えていますが、その後は太陽に近く見えなくなります。4月中旬以降、明け方に見え始めます。9月8日に衝になりますので、年の後半は観望好機となります。

惑星同士の接近は、4月11日の明け方の空で、火星と土星が約0.4度の距離に、8月15日の夜中から明け方の空で、火星と木星が約0.3度の距離まで近づく様子を見ることができます。

星食

月が恒星の手前を横切る星食は時折起こりますが、明るい星が月に隠される星食は珍しい現象です。しかし今年も、惑星や明るい1等星が月に隠される星食が多く見られます。

天球上での月の通り道のことを白道と呼びます。この白道は18.6年周期で変化します。そのため、それぞれの星ごとに、およそ18年を周期とする、星食が起こりやすい時期がやってきます。

8月10日と12月25日には、おとめ座の1等星スピカが月に隠されるスピカ食が起こります。前回のスピカ食は2013年でしたので、実に11年ぶりの現象です。



図2 プレアデス星団食
(ステラナビゲータで作成)



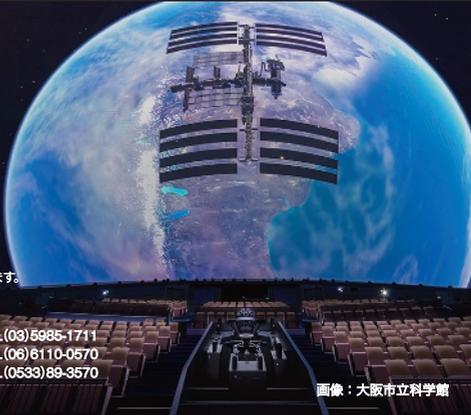
KONICA MINOLTA

私たちは「宇宙」を作っている会社です。

— ブラネタリウム生誕100周年 —

最新の光学・デジタル ブラネタリウム機器の開発・製造から、独自の番組企画・制作・運営ノウハウに至るまで、ブラネタリウムという「スペース」の可能性を追求し続けてまいります。

コニカミノルタ ブラネタリウム株式会社
 本社・東京事業所 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-3 TEL (03) 5985-1711
 大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 TEL (06) 6110-0570
 東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570
 URL: <http://www.koncaminolita.jp/planetarium/>



画像：大阪市立科学館

12月8日には、土星が月に隠される土星食が見られます。

12月14日には、プレアデス星団が月に隠されるプレアデス星団食が起こります。前回のプレアデス星団食は2010年1月25日でしたので、およそ15年ぶりの現象です。これからしばらくプレアデス星団食が起こりやすいシーズンとなり、大阪では2028年にかけて、何度かプレアデス星団食を見ることができます。

流星

8月のペルセウス座流星群は、半月頃の月があるため、月が沈む夜中以降が観測に適しています。8月12日から13日にかけて、特に13日の明け方頃に、たくさんの流れ星が見えそうです。

また、12月のふたご座流星群は、満月近くの月があるため、条件はあまりよくありません。極大が14日の朝の予想となっているため、13日の夜から14日の明け方にかけてが、一番多くの流れ星を見られるでしょう。

江越 航(科学館学芸員)

休館のお知らせ

2023年11/6(月)より、リニューアル工事等のため長期全館休館しています。皆様には、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

リニューアルオープンは、2024年夏の予定です。科学を楽しむ快適空間へと進化する科学館にご期待ください。

大阪市立科学館 <https://www.sci-museum.jp/>

電話:06-6444-5656 (9:00~17:30)

長期休館中(~2024年夏まで)

所在地:〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-1



星の輝きで伝えることがある
五藤光学研究所 ■ 全天候デジタル配給作品

GOTO

五藤光学研究所
<https://www.goto.co.jp/>

まだ見ぬ 宇宙へ

企画:大阪市立科学館
©「まだ見ぬ宇宙へ」製作委員会